

動脈硬化予防へ心臓リハ

小樽協会 外来で退院後も支援

小樽市の小樽協会病院(吉田秀明理事長、柿木滋夫院長・240床)は、心筋梗塞や狭心症、心不全の患者に心臓リハビリを通して、動脈硬化の予防や筋力・運動能力増強に努めている。退院後も外来でのリハビリ継続を支援しているほか、地域包括ケア病棟の入院患者にも十分な運動指導を行い、スムーズな在宅移行につなげている。

心臓リハビリは、持久は、在宅復帰が困難な独居などの高齢患者が多いが、60日間の在院中に十分な心臓リハビリを実施すること、持久力が改善し、退院できた事例もあるという。

地域包括ケア病棟に



ストレッチや筋力トレーニングなど、状態に合わせて実施

持や動脈硬化症の再発防止等につなげている。

現在、小樽・後志地区で心臓リハビリを実施するのは同病院のみ。遠方からの来院や独居などで

通院が困難な患者は、継続困難なケースも見受けられる。

堀享一リハビリテーション科長は、「高齢化に伴い心不全の患者が増加している一方で、退院後受け皿となるリハビリ実

施設や病院はまだ少なく、地域での受け入れ体制整備が今後の課題」と提起する。

また、心臓リハビリの効果が見えるまでに4〜8週間かかるため、理解が進んでいないのが現状だ。「まずは患者に効果をもたせたい」と話している。